

【部会・分科会活動報告】 2019年9,10月度

食 品 安 全 研 究 会	食品微生物研究部会	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会 進捗無し。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会 ・分科会の開催無し。 ・島津製 MALDI 用解析ソフト Saramis の微生物同定データベースの in house ライブラリー拡充を目的とした、SuperSpectra 作製ノウハウに関する技術交流会の開催に向けて、参加希望各社全てが一堂に会する形に変更し、2020年2月に実施する予定となった。 ・名城大 田村先生 (NITE 客員研究員) の部会勉強会でのご講演 2020年2-3月に実施すべく、候補日程を提案した。</p> <p>(3) チルド勉強会 10/8 ILSI 会議室にて、勉強会 (Challenge testing protocols について) および耐熱性試験法検証に関する打合わせを実施した。</p> <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会 10/25 に分科会を開催し、ICMSF ビデオ 10 章中の 3 章分について字幕用の和訳を完成させた。 また、Web ページの見積もり取得、アカデミアへの委嘱、ICMSF へ著作権確認を行った。</p> <p>2. 2019 年度 第 3 回部会全体会議を 9/24 に九州産業大で開催した。20 名の参加であった。当部会 OB の中山先生より「MALDI-TOF-MS を用いた微生物迅速同定法の食品産業への展開」のテーマで講演いただいた。MALDI-TOF-MS の活用方法について活発に議論することができた。 第 4 回の部会は 12 月 2 日に(株)ニチレイにて開催する。主な内容は、国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会の活動について予定している。</p>
	食品リスク研究部会	<p>2019 年度第 3 回目の部会を開催 (2019 年 9 月 4 日)。</p> <p>・「食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信」として高齢者における食品-医薬品相互作用に関する文献を精読、情報を整理した。その結果、高齢者特有の相互作用は見出せなかったため、本調査は終了とし、これまでの検討結果を報告書としてまとめることとした。</p> <p>・一方、参加企業の食品リスク評価のレベルアップのための勉強会は、山添先生 (食品安全委員シニアフェロー) をお招きして 11/25 (月) 実施予定。</p>
	香料研究部会	特に進捗なし
A A T プ ロ	概要	<p>・食品領域における動物実験代替の推進。</p> <p>・参加企業数 15 社 (2019 年 10 月現在)</p> <p>・幹細胞を用いた化学物質リスク情報共有化コンソーシアム scChemRISC 第 2 回研究会にて AAT プロジェクトの活動概要について紹介した (10/16)。</p>

ジ エ ク ト	2020 国際ワークショップ (ILSI Europe 協働)	<p>【概要】 食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として 2020/10/22~23 に横浜で限定公開 (AAT 関連メンバー等) にて開催する。</p> <p>【進捗】 ILSI Europe との Web 会議にて、プログラムの年内確定、一部を除く座長・演者の合意、大会長 (Overall chair) の設置、他支部 (アジア、北米) への連絡等を了承。座長・演者への説明を開始し、施設の最終化を進めている。</p>
	腸管吸収 WG	<p>【概要】 動物を用いないで機能性食品の摂取量を推定するためには動態の予測法開発が必須である。昭和薬大山崎研の動態予測 (計算) モデルの適用性を検討する。</p> <p>【進捗】 予測モデル構築に用いた化合物群 (学習セット) と食品成分との間で化学構造的特性を比較した結果、類似の傾向を示すことが分り、食品成分を学習セットに新たに追加せずとも、現状の動態予測モデルを活用できる可能性が見いだされた。</p>
	データベース WG	<p>【概要】 毒性文献等を活用した反復投与毒性を予測する手法の活用。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p> <p>【進捗】 反復投与毒性を予測する外部プロジェクトとの連携を検討。ILSI のニーズに合ったデータセットの活動ができるよう、様々な予測系への展開を可能とするデータフォーマットを選定した。</p>
	定期会議	・次回全体会議の予定：12/6
バイオテクノロジー研究会		<p>1. 2019 年度 第 5 回目会議を 10 月 31 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書 第 46 号を 10 月発刊、ERA プロジェクト調査報告 第 47 号の勉強会： ・10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。</p> <p>(2) ISO/TC34/SC16 総会ポスト WS (11/22 開催予定)について： ・10 月 28 日開催 第 3 回企画委員会について報告。 当日の運営補助についても議論。</p> <p>(3) アドバイザリー委員選任について： ・横浜国立大学大学院環境情報学府環境遺伝子工学研究分野 平塚和之先生が選任された。</p> <p>(4) その他 来年度活動等について議論。</p>
栄 養 健 康 研 究 会	栄養研究部会	<p>第 8 回「栄養とエイジング」国際会議開催 ・事務局、健康な食事研究会と協働で、前日 (9/30) : 準備。当日 (10/1-2) : 会議運営。</p>
	GR プロジェクト	多施設試験に関する結果報告を行った。
	茶類研究部会・茶情報分科会	特に進捗なし
食品機能性研究会		
健 康 な 食 事 研 究 会	ワーキンググループ 1 (WG1) 科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築	・第 8 回「栄養とエイジング」国際会議での発表内容の準備。要旨、英日翻訳、配布スライドおよび発表準備。
	ワーキンググループ 2 (WG2) 外食・中食・給食の実態把握	<p>・第 8 回「栄養とエイジング」国際会議での発表内容の準備。中食業界アンケート内容結果から発表すべきグラフの取捨選択。要旨、英日翻訳、配布スライドおよび発表スライドの作成。</p> <p>・10 月 30 日ミーティングの実施。国際会議での発表内容の共有。「イルシー」誌 143 号に活動報告書掲載を目指すことで合意。</p>

	<p>ワーキンググループ3 (WG3) 健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回「栄養とエイジング」国際会議での発表内容の準備。要旨、英日翻訳、配布スライドおよび発表スライドの作成。 ・11月8日にミーティングの実施。「イルシー」誌143号に活動報告書掲載を目指すこと、そのためのワーキングを2020年1月～2月に実施することを合意。
	<p>研究会全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10月1日2日に国連大学で300名を超える参加者で開催された第8回「栄養とエイジング」国際会議で、健康な食事研究会の活動の集大成を1日目の午後、3つのワーキンググループから以下のように発表した。 <ol style="list-style-type: none"> ① 健康な食事の定義に関する課題と問題提起 ② 健康を直接的に押し出すよりも消費者に間接的に健康を感じさせる表現のあることが中食の実態調査からわかったこと ③ 社会実装としての健康経営に関する調査報告から見えてきた、知らず知らずのうちに健康になる環境整備の必要性 質疑応答から関心の高いことがうかがえた。 ・企業スタッフとして15名が栄養とエイジング国際会議の当日運営にかかわり、「イルシー」141号に掲載予定のフラッシュレポートの作成の分担も行った。 ・10月25日第9回全体会議で参加メンバーへ国際会議を報告し、今後の方向性を議論した。12月上旬に「健康な食事研究会」の今後の活動に関して、第10回全体会議を行う予定。
<p>C H P</p>	<p>Project PAN (Physical Activity and Nutrition) 身体活動と栄養”プロジェクト</p>	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ～元気で長生きのための運動・栄養プログラム～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月10日,11日,13日,24日,25日,26日,10月8日,9日,11日,23日,25日,29日すみだテイクテン (スポーツプラザ梅若、墨田総合体育館、すみだ女性センター) ・9月5日～26日 東京家政学院大学 栄養プロデュース実習 9名参加 (ILSI Japan 会議室、墨田区) ・9月18日,10月7日 テイクテンリーダー講習会 15名参加 (日本ハム株式会社東京本社、大崎)
	<p>Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) 途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・9月19日 栄養改善事業推進プラットフォーム (NJPPP) 第14回運営委員会 (JICA 市ヶ谷国際会議場, 東京) ・『インドネシアでの給食提供による栄養改善プロジェクト Phase 2』報告 ・カンボジア新規プロジェクト申請・承認 「カンボジアでの「職場の栄養改善」におけるブロックチェーン技術を応用した栄養啓発活動」 10月8～12日 富士通総研、ILSI Japan、現地スタディー実施工場他と新規プロジェクトに関し、打ち合わせ (プノンペン、カンボジア)
	<p>CHP 全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10月31日 The Power of Nutrition / Chatham House (英国のシンクタンク) が実施する「栄養問題とビジネス」のスタディー (2020年栄養サミットで発表) に、大塚ホールディングスの参加が決定した。
	<p>国際協力委員会</p>	<p>第11回 BeSeTo 会議開催: 2019年9月26日 (木) ～27日 (金) 会場: ペナン、マレーシア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ILSI アジア支部の食品関連法規情報交換会として、ILSI Focal Point of China, Korea, Japan, South East Asia Region, Taiwan 各支部のメンバー企業担当者が各国の食品に関する法規の

	<p>Update 情報を 20 分程度のプレゼンの形で紹介した。今年は約 40 名の参加があり、日本からは以下の 5 演題を発表した。</p> <p>① Reduction of Food Loss (関谷副委員長) ② Sugar Regulation (杉森委員) ③ Amendment of Food Sanitation Act (細野委員) ④ Foods with Function Claims (橋本副委員長) ⑤ Allergy Label (松山委員長)</p> <p>その他支部より、豚コレラ、MSG、健康食品訴求、砂糖税、GMO ラベル、冷凍輸送チェーン等のプレゼンがあり活発な意見交換が行われた。</p> <p>委員会開催：2019 年 10 月 29 日 (火) 15:00～17:00</p> <p>【議題】</p> <p>1. ネスレグループの退会の報告 2. コーデックス連絡協議会、対策委員会の委員への立候補の是非 3. 栄養表示・栄養ヘルスクレームモノグラフの発売 4. 今年度予算収支と来年度予算申請 5. BeSeTo 会議の報告</p>
情報委員会	<p>栄養学レビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・28 巻 1 号、通巻 106 号採択論文 4 報 (5/27) → OUP の承認取得 → 再校 → OUP 承認取得済み → 2019 年 11 月発刊予定で入校 ・28 巻 2 号、通巻 107 号 (2020 年 2 月発刊予定) 編集会議 (8/26)、3 報採択 → OUP の承認取得 → 翻訳終了 → 監修中・締め切り(11/20) → 1 報監修終了・加筆中 → 2020 年 2 月発刊予定 ・次回編集会議 11 月 22 日 (金) 16 時～
編集部会	<ul style="list-style-type: none"> ・「イルシー」139 号発行 ・「イルシー」140 号発行 (第 8 回「栄養とエイジング」国際会議要旨・スライドデータ集) ・「イルシー」141～143 号原稿依頼検討、編集。

【講演会・シンポジウムご案内】

講演会名	案内	担当研究部会

【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>第 4 回理事会を 2019 年 10 月 18 日 (金) に開催した。</p> <p>1. 決議事項 木村毅副理事長が来年度、本部理事候補へ推薦されることに伴い、その選任基準を満たすため ILSI Japan 副理事長職の退任の説明があり、満場一致で可決された。</p> <p>次に木村理事の副理事長退任に伴い、同じ産業界の阿部 (文) 理事を新副理事長に選任した。また理事長の職務代行第一順位についても同じく産業界から谷口副理事長を選任した。</p> <p>2. 報告・討議事項</p> <p>1) 研究会・研究部会活動の以下内容について、事務局長より説明、</p>
-----	--

	<p>報告した。</p> <p>ア) BeSeTo 会議</p> <p>イ) 栄養とエイジング国際会議</p> <p>ウ) ISO/TC34/SC16 総会ポストワークショップ</p> <p>エ) 微生物研究部会 (国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会)</p> <p>オ) AAT プロジェクト</p> <p>カ) CHP 活動</p> <p>2) 2019 年収支見込 俵積田次長より、連結ベースの収支は、7 月時の見込みより収支が改善していること、またその詳細を説明した。</p> <p>3) 新寄付講座の進捗 概要の説明が事務局よりあり、次回理事会にて最終案の提案を予定する。</p> <p>4) 新役員選任プロセス 新たなテーマと研究会活性化を考慮し「栄養と健康」、「環境・サステナビリティ」分野を進めたい。そのためのプロセスを検討して提案する。</p>
事務局	10 月 24 日付にて「栄養学レビュー」担当として元森永乳業(株)の箸本氏が就任した。